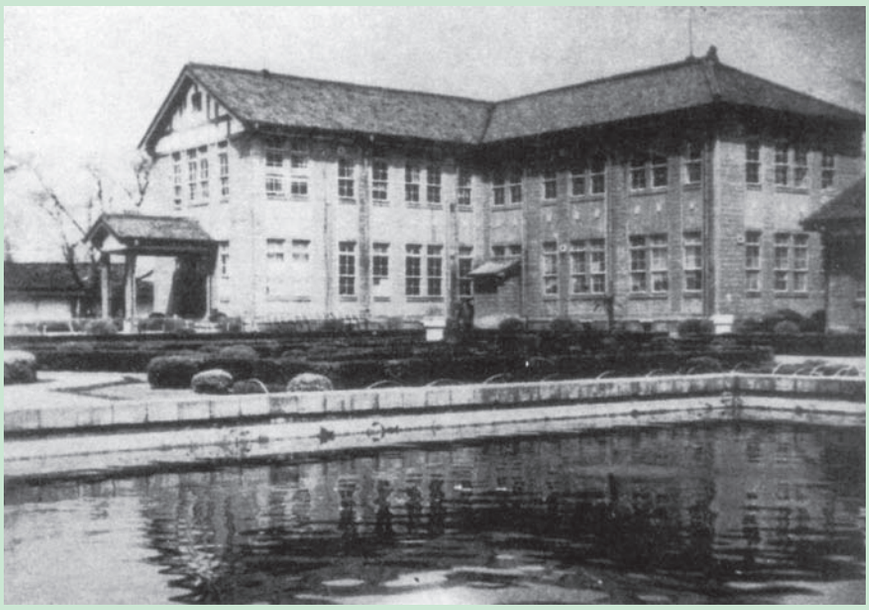
宇都宮大学
教育学部
同窓会会報

NO.125
平成29年9月15日
発行人　松本展壽
宇都宮市峰町350
宇都宮大学教育学部同窓会事務局
電話・FAX　028－635－0853
（有）正栄社印刷所

思い出の学び舎



大学本館（峰地区　昭和30年頃）

栃木県師範学校報徳室（昭和前期）

学芸学部を前に演説する大野貞祐文相
（昭和27年）

木造二階建て校舎「演習室」の想い出

昭和33年度卒　**柏村　政**

私は昭和30年４月学芸学部Ｉ部乙類国語科に入学した。１学年から４学年までで、40名程度だったように記憶している。最上級生はあまり顔を見せなかったから、20～30名が演習室によく集まった。ここでは、多々良教授の古文の指導、豊田教授の漢文の指導がなされた。古文や漢文の素読を一人ずつするが、予習を怠けた時など、随分学友に助けられた。秋の大学祭は、現在宇都宮市役所が建ってる場所にあったスポーツセンターで行われた。この時の、国語科の演技の練習や衣装の準備なども演習室でやった。演習室の南側には、大きな欅が緑葉を茂らせ緑陰をつくった。演習室の窓からは爽やかな風が吹き込み、談笑しながらの弁当は美味だった。豊かな学生生活を演出してくれるのも、この演習室だった。

先日、友人Ｎが「３Ｃ基金」へ寄付したという。「俺が今こうしていられるのも大学のお陰だ。」Ｎの気概に感銘し、私も些少な寄付をした。演習室での数々の大学生活を思い出しながら…

目　次

同窓会会長と教育学部長からのメッセージ　…2
同窓会から学生への支援……3
心に残る先生や先輩……4
懐かしい学生の頃……5
現場からの声……6
学生生活を振り返って……7
今に生きる……8・9
定期総会概況報告……10・11
同窓会について・同窓会事務局から……12
編集後記……12

同窓会会長と教育学部長からのメッセージ

ご挨拶

宇都宮大学教育学部同窓会会長
松本展壽

九州北部の豪雨災害にはじまり、秋田、新潟など全国各地に豪雨による災害が続いています。最近の雨の降り方は異常としかいいようにありません。これ以上被害が広がらないよう願うばかりです。

今年の総会は、７月２日に宇都宮大学副学長 藤井佐知子様、教育学部長 伊東明彦様、さらにたくさんの御来賓の方々の御臨席をいただき盛会に開催することが出来ました。また、県内各地から多数の会員の皆様方に参加していただき大変ありがとうございました。今年度は、春、秋の叙勲の方が２名、高齢者叙勲25名の方が受章されました。誠におめでとうございます。受章された５名の方が総会に出席してくださり、さらに懇親会にもお残りくださり、元気に昔話をされていた姿に大変うれしく感じました。ありがとうございました。また、７名の支部長さんが退任されました。同窓会のために御尽力いただき感謝申し上げるとともに、今後とも同窓会活動に御協力いただけますようお願いいたします。講話は、地域デザイン科学部の准教授 若園雄志郎様に「地域の力を引き出すために」という演題で新学部のことをわかりやすく説明していただきました。新学部のこれからの発展を確信いたしました。

昨年のホームカミングデーには、たくさんの会員の皆様方が参加してくださり盛会のうちに終了できました。次回は３年後となりますが、たくさんの会員の方の参加をお待ちしております。

ご挨拶

宇都宮大学教育学部学部長
伊東明彦

教育学部長の伊東でございます。教育学部同窓会の皆様には日ごろから大変お世話になっております。特に、教員採用試験対策のための面接、小論文の指導に当たっては並々ならぬご助力をいただいており、厚く御礼申し上げます。

夏を迎え、例年のように教員採用試験の季節となりました。昨年度の本学部卒業生の教員就職率は61.2％（暫定値）と、一昨年より若干持ち直しました。教育学部ではさらに教員就職率を上げることを最重要課題ととらえ、様々な施策を行っているところです。

一方、文部科学省のもとに昨年設置された「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」では、大学間の連携も視野に入れた教員養成学部の再編が必須であるとの非常に厳しい見解が示されています。事実、本教育学部の教員数は今年４月現在で73名であり、法人化された平成16年と比べると、30名近くも減少しています。まさに、教員養成を続けていくためには、他大学との連携も視野に入れた改革を考えざるを得ないところまできています。

このように厳しい状況ではありますが、本教育学部は栃木県の教員養成を担う重要な使命を担っているのだということを肝に銘じて、今後も努めてまいります。同窓会の皆様のさらなるお力添えをよろしくお願いいたします。

心像風景 / 美術教育専攻　六角 春香

同窓会から学生への支援

教育学部の学生の就職に役立てるよう、
同窓会員が支援

教育現場での活躍を期待

就職セミナー指導員　深 澤 伸 久

集団面接セミナーの講師を辞めて今年で３年になります。真面目に真剣に参加している学生たちの姿を見、こちらも一生懸命臨まなければとセミナー一週間位前から準備にかかっていたことが思い出されます。しかし、講師としての責任を果たすことに少々重荷を感じるようになった頃、素晴らしい後任の方が見つかりバトンタッチできたときは正直ホッとしました。

「宇大生は教職についてから伸びる人が多い」この言葉は私が現役だった頃からよく耳にしました。セミナーに臨む真摯な態度や純粋な気持ちを毎回感じとると、確かにそれもうなずけます。

情熱を持って子供を指導することに喜びを感じる教師、そういう素質をもった宇大生がひとりでも多く教員になり、教育現場で生き生きと活躍されることを先輩の一人として期待し祈っております。

未来にはばたくために

就職セミナー指導員　木 村 のり子

時代は様変わりしても、就職活動の厳しさは同じであるようです。採用試験の内容も、難しくなっています。卒業して50年近く経った今、後輩の皆様の努力の様子に接し感慨深いものがあります。

教育実習等の経験を生かして、前向きに教育への情熱を語る学生の姿に、大学と同窓会の連携のもと就職支援が実を結んでいることを実感しています。就職支援のきめ細やかなご指導の様子も初めて知ることができました。

教育現場では様々な試練もあるかと思いますが、原点に立ち返り真摯に向きあえば、おのずと開けてくると思います。

ひとりでも多くの後輩の皆様が、大学で学んだことを生かし教育に携わることを願っております。

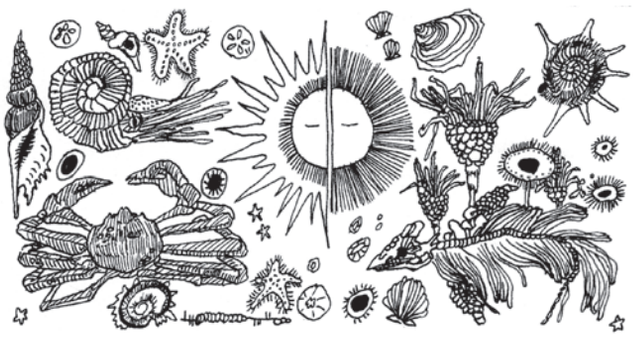
お世話になった支援室

音楽教育専攻卒　樋 口 紗也果

教員採用試験に向けて不安でいっぱいだった３年生の秋頃、初めて支援室を訪れました。勇気を出して支援室に入ってみると、先生が温かく迎えてくださいました。

支援室の先生方は、いつでも優しく話を聞いてくださり、的確な助言をしてくださいました。そのおかげで、最後まであきらめずに取り組むことができました。また、支援室を通してたくさんの友人ができました。同じ夢や目標に向かって、友人と共に面接や実技の練習をしたのは、良い思い出です。

現在、私は小学校で勤務しています。毎日わからないことばかりで、失敗することもたくさんあります。しかし、元気で明るい子どもたちや、優しくご指導してくださる先生方に囲まれながら、毎日充実した日々を送っています。



海 / 美術教育専攻　水越 葉子

応えてくれる支援室

理科教育専攻卒　中 島 弘 樹

「教師になりたい」その思いだけを胸に抱き、就職支援室の扉を開けました。１次試験を何とか乗り越えるも、２次試験の対策は、自分の力だけではどうにもなりませんでした。そんな時に、お力添えを頂いたのが就職支援室でした。

就職支援室の先生方には、願書の添削、論作文の添削、面接・集団討論練習などのご指導を頂きました。先生方からは、面接での話し方やその印象をはじめ、具体的かつ的確なアドバイスを頂きました。どれも、長い教員生活で培った経験から得られるもので、経験が浅い学生にとって、貴重なものでした。

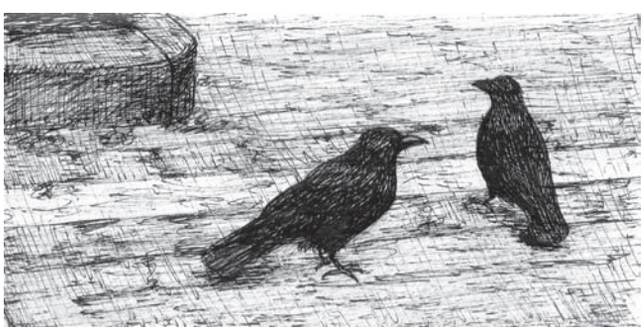
就職支援室は、先生方だけでなく、巣立っていった先輩方の熱意も、参考書や情報資料へと形を変え、脈々と受け継がれています。就職支援室は、教員を目指す人を全力で支えてくれる場所だと私は思います。

心に残る先生や先輩

いつまでも心に残るN先生

足利支部　鈴木一弘

私は、昭和58年に新規採用教員として足利市立北郷小学校に赴任しました。担当は４年２組、Ｎ先生は、お隣の３組でした。身長は180㎝以上、高校時代に甲子園を経験した、笑顔のやさしい包容力のあるがっちりタイプの先生でした。朝の会ではギターを片手にみんなで歌い、休み時間や給食の時間も笑い声の絶えない楽しそうなクラスでした。私はそんな学級経営のできるＮ先生のことをとても羨ましく感じていました。その頃の私は日々悩んでいました。授業・学級経営、そしてサッカー。私は国体成年選抜候補で、火木土（練習）・日（関東リーグ）とハードな状態だったのです。ある飲み会で私は、自身の悩みをＮ先生に打ち明けたのでした。全てを受け止めてくれたＮ先生、私は涙が止まりませんでした。数年後、Ｎ先生は病に倒れ、若くして帰らぬ人となったのでした。



盟友 / 美術教育専攻　須藤 麻畝

夢を応援してくれた先生方

佐野支部　益子千夏

教員として働き始めて、３年が経ちました。高校生のときに「先生になりたい」という夢を漠然と抱きました。大学４年生のとき、教員採用試験に合格して教員になれると知ったときは、大変うれしかったです。

教員になるという夢を実現できたのは、大学で出会った先生方のおかげです。教育学部の学科の先生は、教育の基礎を丁寧に教えてくださいました。就職支援室の先生は、試験勉強に親身になって付き合ってくださいました。試験を受けるまでの不安な時期も笑顔で温かい言葉をかけてくれ、ほっとしたのを覚えています。

このような素敵な先生方に出会い、教師として自分がどのように働いていきたいかを、見つめることができたことは今の自分の原点になっています。目の前の子どもに一生懸命関わることで、お世話になった先生方への恩返しができればと思います。

今もお世話になっています。

宇都宮支部　黒川悦夫

いつの間にか教職について三十数年の時がたってしまいました。これまで教員としてやってこられたのも多くの先生方のお世話になってきたおかげです。

その中でも、大学でお世話になった先輩方には、頭が上がりません。私は理科の地学研究室だったので、先輩の研究のお手伝いをしながら、いろいろなことを学ばせていただきました。冬の夜空の流星観測に行ったり、山へ行って石を担いで来たり、いろいろな思い出があります。学業以外の遊びも一緒にさせていただきました。

教職について何年もご無沙汰したときでも、何かの仕事でお会いすると、あっという間に大学時代に戻り、声をかけていただいたり、ご指導いただいたり、大変お世話になっています。大学での先輩方との出会いは、私にとってかけがえのないものになっています。

心に残る先生

南那須支部　川上ひより

卒業後、足が遠のいていた宇都宮大学で、再び学ぶ機会を得たのは、平成10年の内地留学だった。恩師との懐かしい再会。学校での授業を経験した上での講義は、学生時代よりも実感を伴うものだった。

当時、内留生の指導は、長尾高明先生や香西秀信先生が中心となり、いろいろと教えてくださった。また私の担当教官は、奇しくも大学時代同期の赤羽義章先生だった。赤羽先生とは、大学時代の思い出なども交えながら、大学と小学校の教員というそれぞれの立場から、国語教育について語り合った。

その後、平成17年に赤羽先生が、平成20年には長尾先生、そして平成25年に香西先生と、内留のときにお世話になった先生方が、相次いで他界された。今は、書棚に並ぶ先生方の本を時折開いては、あの頃の日々を懐かしく思い起こしている。

懐かしい学生の頃

大学を卒業した皆様の当時の思い出

メタセコイヤに想う

上三川支部　吉澤　勝

大学に行く機会がある際には、必ず行く場所があります。学生の頃所属していた部の道場は、新しい体育館に様変わりしましたが、２本のメタセコイヤは現在も昔のままです。私にとっては教室や図書館よりもこの場所の方が思い出多き場所です。当時は稽古が嫌でこの場所を遠ざけたい気持ちばかりでしたが、就職先も決まらず迎えた卒業の日は、長い時間この木を眺めていました。教職に就いた後もメタセコイヤを見たくなる時があり、幾度か足を運びました。仕事に行き詰まりを感じた時や受け持った部活動の大事な試合前などです。そう言えば、娘の受験期にも訪れたりもしました。

次はどんな想いの時に訪れるのでしょうか。この文を書きながら、メタセコイヤに逢いたい衝動に駆られています。

思い出の味

大平支部　清水文枝

私は、富山県の「鱒の寿司」のお弁当が大好きで、スーパーの駅弁フェアがあると、必ず買ってしまう。それは、大学の時の思い出の味だからだ。

私は生物研究会というサークルに所属していた。八溝山系や鬼怒川等に生息する生き物について研究していた硬派のサークルだったが、私は、飲み会と夏山登山だけに参加する幽霊部員だった。尾瀬のハイキングや白根山、南アルプスなどの登山は、楽しく順調だったが、大学３年の時の立山登山はそうはいかなかった。夜、荒天に見舞われ、テントが飛ばされそうになり近くのロッジに避難した。ようやく下山し、数日ぶりに温泉につかり、富山駅で、当時の学生としては高価だった「鱒の寿司」を仲間と食べた。その時の味と興奮が忘れられない。

今でもその仲間とは、１年に１度会って飲んでいる。50歳を過ぎても、学生気分に戻れる楽しい時間だ。

鱒の寿司

あの頃の思い出

岩舟支部　天海敦嗣

私が宇都宮大学に入学させていただいたのが、昭和60年。教育学部教育心理専修（当時の名称）にお世話になった。１学年10数名の小さな学科であった。教科専門の学科と比べ、人数が少なかったためか、縦・横のつながりが強かったように感じている。

そんな大学生活で心に残っているのは、野球好きのＹ教授のもと、軟式野球同好会の一員として活動したことだ。練習も楽しかったが、内留に来られていた先生のつてで行った、中学生との試合が思い出深い。週に２、３回のゆるい練習しかしていない大学生が、日々精進する中学生に勝てるわけがない。中学生に胸を借りていた。試合後には教授を囲んでの打ち上げ。「三振前の大当たり」が私のニックネーム。先輩後輩を交えての歓談で、時間が過ぎていった。チームにはあまり貢献できなかったが、忘れられない思い出である。

思い出の北の大地

那須北支部　笹沼裕一

私が宇都宮大学を卒業してから20年以上の月日が過ぎました。昨年、免許更新講習で久しぶりに母校を訪れ、学生時代のことが懐かしく思い出されました。

当時の夏休みの思い出は、北海道の自転車旅です。１年目は一人旅でしたが、２年目は男３人旅でした。青春18切符を有効利用し、八戸～苫小牧間のフェリーで北海道に渡り、約３週間の旅をしました。台風の接近による大雨に見舞われ、夜中にテントを撤収したことも今となっては良き思い出です。メロン、ステーキ、イクラ丼、ワインなど、北海道の美味い物を堪能しましたが、結局一番おいしかったのは空腹時のレトルトカレーだったことを覚えています。そして、摩周湖は２年続けて霧が晴れていました。こんな旅は二度とできないとは思いますが、猛暑日が続くたびに北の大地が私を呼んでいるような気がしてなりません。

懐かしき大学時代

芳賀支部　金澤長年

宇都宮大学を卒業して早や34年。現在は学校現場で、子どもたちとともに楽しく毎日を過ごしています。大学前を車で通る時には、４年間を過ごした理科棟や現在の学生たちの姿を横目で見ながら、当時を懐かしく思い出しています。

私が入学した昭和54年には、すでに学生運動も下火となり、自由な雰囲気に満ち溢れたキャンパスとなっていました。個性あふれる同級生、先輩、後輩、先生方に囲まれ、充実した大学生活を送ることができました。一方で、喫茶店員・添乗員・家庭教師など、様々なアルバイトを通して、いち早く社会人として必要となるスキルについても学ぶことができたと思います。

今の自分があるのも大学時代に培った基盤があってこそと、当時、関わっていただいたすべての皆様に感謝したいと思います。

現場からの声

教職に就いている人、
教職以外で活躍している人の
メッセージ

母校に想う…

小山支部　佐藤義明

40数年の年月を経て、私は母校の中学校へと戻ってきた。当時の面影が、体育館、プール、技術室棟に今なお残っていることに深い感慨を覚えた。また、生徒たちが力強く歌い上げる校歌に身震いし、過去の自分を重ね、「帰ってきた」ことを噛みしめた。

学校の隣には当時の佇まいそのままの鎮守の森と神社があり、私の恩師も近くに住んでいる。地域は、先輩や後輩、今までお世話になった方々で溢れている。

この「環境」の中に校長として赴任した時に感じた戸惑いやプレッシャーはもうない。今あるのは、全ての生徒が「私の後輩」である母校で、日々勤務に精励し、教職を全うできることへの喜びと誇りである。

私は、私の名前で「後輩」に卒業証書を渡せることにロマンを感じている。残念なことに、このロマンを感じるチャンスもあと２回となってしまった。

「勤務実態調査」から感じたこと

那須北支部　森　秀明

新聞各社から、「中学校の57％、小学校でも33％の教師は、過労死ライン！」等のセンセーショナルな記事が報じられた。４月28日に文科省から公表された「教職員の勤務実態調査（速報値）」を受けての事である。偶然にも、私は４月からの出勤と退勤時刻を記録していた。自分の超過勤務時間を積算すると、月80時間とされるラインをあっさり超えていた。記事を目にし、改めて現場の抱える問題の大きさと、「時間」に対する自分の意識の低さを思い知った。

科学的な根拠に基づいた数値には、意味がある。『自分は大丈夫だ。』という過信は禁物だ。自分の意識改革は勿論であるが、若い先生方にこの環境を引き継がせてはいけないという思いを強くした。現実との狭間で悩みは尽きないが、心身の健康という観点からも、日々の業務の見直しと改善が急務だと感じている。

連携協力実践校として

宇都宮支部　井口桂一

創立43周年を迎える温かな校風の本校に着任して４か月。本校は、429名の元気いっぱいの児童が、情熱溢れる先生方の教えを受けながら、意欲的に学びを進めています。学区が、宇都宮大学と隣接しており学生ボランティアの活動も盛んに行われています。

平成27年度、大学院教育学研究科に教育実践高度化専攻（教職大学院）が開設されました。本校では、昨年度から「宇都宮大学教育学部教育実践プロジェクト連携協力実習校」となっており、大学院生が１名派遣され、教職員や児童と関わり合いながら実践研究を進めています。派遣の先生には、本校の教育研究へのお手伝いをいただくと共に特に若手教員への刺激も与えてもらっています。

今後、大学の先生方にも関わっていただきながら、大学のよきパートナーになれると嬉しい限りです。

橋 / 総合人間形成課程　田宮 知羽

感動のフィナーレ

国分寺支部　小﨑良行

私の大好きな行事、それは合唱コンクールだ。国分寺中の合唱は気合いマックスである。２カ月間本気で追究し続けるのだ。

今年は「春風の中で」という曲を歌った。「今あなたに伝えたいありがとう」という歌詞の通り、共にがんばった仲間に感謝を伝える合唱になればいいなと思った。しかし、なかなか思ったような合唱にならない日々が続いた。それでも生徒たちはあきらめずに練習を続けた。その中でリーダーも周りのメンバーも、伝えたい感謝の思いに気づくことができた。そこから合唱が変わってきた。コンクールでは金賞をいただいたが、賞はおまけと胸を張っていえるほどの感動をクラスで味わうことができた。

今年も全力で合唱をやりきった。こんな積み重ねが生徒の輝かしい未来を作ると信じこれからも頑張りたい。

大学生活を振り返って

大学を卒業した人と
学生が日頃感じていること

「教えること」を学ぶこと

国語教育専攻　井口直弥

遡ること、５年前。私は自宅から近いことを大きな理由にして、この大学を志望し入学した。そのような経緯で教育を学び始めたが、この大学での４年の間に教員という職業への思いは高まっていった。

日々の講義においては、専門の国語科教育をはじめとする、教員に必要な知識を得た。そのことで、教職への興味は増していった。また、大学では、教職と少し離れた領域の授業を聞くこともでき、自らの視野が広がった。一段と教職に対する思いを高めることになったのは、教育実習である。体力的には大変な期間だったが、非常に充実した期間でもあった。教えるということの難しさと喜びを実感した。

現在、私は大学院に所属している。教えることの喜びを感じ、知ることの喜びを伝えることのできる教員になるために今後も精進していく。

大学での成長

理科教育専攻　長谷川光輝

私は、教師になるという漠然とした目標をもって宇都宮大学に入学しました。理科専攻として入学しましたが、教科へのとらわれはなく、教師として誰かに何かを教えることの良さ・楽しさを感じ取ろうと日々の学校生活を送り、学んできました。このような学校生活の中、専門分野である理科について、物化生地からなる４分野の基礎を学ぶだけでなく、子どもの現状に合わせた指導法・教材開発の考案・検討をしています。理科を教える難しさに触れながらも、その意義と楽しさを感じ、目標も「先生となってから」に視点を移すことができました。

９月にある教育実習では、様々な困難や壁にぶつかることがあると思いますが、共に学ぶ仲間たちとともに、教員としての力をつけていきたいと思います。

これまでを振り返り

美術教育専攻　吉田夏希

宇都宮大学に入学してもう３年目。入学した頃は、この場で４年間という長い月日を過ごすのだと感じていました。しかし、とんでもない。３年間という月日は私たちにとって短く、あっという間に過ぎていきました。

普段の講義や課外活動、教育実習など、どれもひとつひとつが貴重な経験であり、かけがえのないものです。講義のなかには、実際に子どもたちとふれあう活動のものもあり、ふれあうことでしか分からなかったことも数多くあります。

私は今、３年生としての教育実習を控えています。とても不安で仕方ありません。しかし、ともに実習を行う仲間たち、実習を支えてくださる先生方、そしてなにより子どもたち。今から会えると思うとどきどきします。この実習で様々な人々から学びたいです。

夢の実現に向けて

大学院　松本晃枝

宇都宮大学から大学院に進学して半年がたった今、４年間の学生生活を振り返ってみると、普段の講義や教育実習、部活動など、とても充実していたと感じます。

教育実習では、35人の子どもたちを相手に、初めてのことばかりで緊張しましたが、先生方や友人、そして子どもたちに支えられながら多くのことを学び、自分自身大きく成長することができたと思います。また、技術科で開催したものづくり教室や、ロボット教室のボランティアを通して、子どもたちの真剣な表情や笑顔など、様々な表情を見ることができ、技術教育の面白さを実感することができました。

残りの学生生活の中では、大学時代に学んだことをさらに深め、実際に教師になった際に活かせるような知識や判断力を身につけ、教師になるという夢の実現に向けて努力していきたいと思います。

川 / 美術教育専攻　増川綾香

今に

一所懸命

宇都宮支部　髙田　實
昭和45年度卒

宇都宮で生まれ育ち、宇大を卒業して初めての赴任校は上都賀管内の小学校でした。後に宇都宮に戻るべく転勤希望を出しましたが、当時は宇都宮への異動には試験があり、受験の結果何とか異動が叶いました。

他管からの転入教職員研修会で、教育長の後藤一雄先生から「それぞれの学校のそれぞれの立場で本気になって頑張ってほしい」とのお気持ちを「一所懸命」という言葉に託されてのご講話をいただきました。

「一所（配属されたそれぞれの職場での限りある期間）を全力で」の言葉に新鮮な魅力を感じたものです。

以来、まさに「一所懸命」を旨とし、６か所の職場での勤務を経て、現在、定年後２か所目の職場となる幼稚園に、縁あってお世話になっております。

年相応の顔立ちに変化する中、「顔は１つ、表情は無限」「子どもは大人の鏡」に心して、和顔愛語で接しながら園児の笑顔に元気をいただく毎日です。

今後とも「全ては子どもたちのために」を座右の銘とし、「撤収までは設営だ」をモットーに、職場で出会えた仲間と共によい汗をかける毎日を大切にしていきたいと思うこの頃です。

やりたいことがある

芳賀支部　飯島雅文
昭和55年度卒

「どうしてやめるんですか。」56歳。答えは「やりたいことがあるから。」中学校の美術教員として就職。仕事の後、夜は版画の制作。「路傍の石」…たった一度の人生だから…の言葉ではないが、子供たちも大学を終えたので、退職することとした。

納屋を改造し画廊にした。57歳の時に完成、開店。「半画廊」（ネット検索）と名付けた。全て自分の作品。版画（銅版画・木版画）ペン画、水彩画、陶器、木工作品、彫刻等…。土日祝日だけの営業。残念ながら、最近客はほとんど来ない。

宅地と畑で1,300坪程度の土地がある。庭木が千本程度（椿・紅葉・ツツジ・真柏が中心）。中学生の頃から我が家の松は、私が剪定していた。画廊のお客さんは「隣は造園屋？」と勘違いすることもある。

子供の頃から、お金がない生活に浸っていたので、ないものは自分で造る。昨年は50ｍの塀を作った。画廊の内装、床、窯場の棚も自作。掛け軸の箱やドアも作る。車庫のような作業場があり、近所の人は先生のところに行くと、大工道具でも何でもあると笑う。

毎日毎日することがある。今日は梟（ふくろう）の絵を描いた。

特技は「草刈りと芝刈り（ゴルフ）」

塩谷支部　津浦幸夫
昭和48年度卒

卒業して43年、今年前期高齢者を迎えました。大学時代は軟式庭球部に所属し、テニスコートで汗を流したのが懐かしく思い出されます。

現在は、畑と山７haの自然に恵まれた環境の中で、毎日土手の草刈りや山の下刈りに汗を流しています。現職校長の時には、休日に学校の草刈りもやりました。

退職を機に、勤務校でお世話になっていた学校支援ボランティア「地域応援隊」に入りました。活動分野は環境整備で、草刈りが中心です。ＰＴＡの奉仕作業の他に草の伸び方を見て、年５～６回作業します。きれいな環境の中で子どもたちが活動する姿を思い浮かべながら…。この他に地元中学校や閉校になった小学校の草刈りもやり、草刈りで奉仕しています。

ゴルフは、自然の家に勤務した時、所長から教わりました。退職後は自宅に80ヤード打てる練習場を作り、毎朝練習した結果、ベストスコアは70がでました。現在は週２回のペースで、70台を目標にプレーしています。ゴルフは高齢になってもできるスポーツなので、楽しく多くの人とふれあいながら80代まで続けたいと思います。今も夢は広がっています。

栃の木の下より / 美術教育専攻　白川 麻由

生きる

退職し、第二の人生を
歩んでいる人のエッセイ

多くの出会いに感謝して

佐野支部　関谷秀明
昭和46年度卒

私は昭和43年度入学生。矢板の片田舎から音楽の勉学に燃えて入学したものの、その道では諸般の事情で不完全燃焼が続いた。そのような中で生涯を支える力を養ってくれたのがサークル活動であった。宇都宮大学混声合唱団、略称「UUMC」。

地方の大学であっても当然学生は全国から集まる。UUMCにも全都府県とはいえないが、北は北海道から南は九州・沖縄まで、多様な歴史や文化、風土の中で育まれた多くの仲間が集っていた。そのような仲間たちと練習はもちろんのこと定期演奏会や県内の地域を歌って回る巡回演奏会、練習合宿などについて議論をし、計画・実践して得たことが、大きな力となって社会人生活を支えてくれた。

退職をしてから早７年が過ぎ８年目を迎えたが、いくつかの学校で子供達に音楽を教え、社会人の合唱団を指導している。今年は25回目の佐野第九演奏会を迎える。力の源泉は学生時代に蓄えた力のおかげと感謝している。そういえば今の合唱団員の一人が、巡回演奏会で訪れた学校の生徒だったと聞いて驚いた。人との出会いは、今なお生きる力となっている。

菜種の実る頃

足利支部　坂本三郎
昭和32年度卒

昭和19年の晩春は、雲一つない晴天の日が多かった。父母と子供たちで油菜の収穫を行なっていた所へ、役場のお兄さんが手紙を持ってやって来た。父は手紙を受け取って硬直。母親は手紙を奪い取りそのまま泣き伏した。

私は小学校の１年生、何が起きたのか全く解りませんでした。素足の指の間に冷たい油菜の種が入り込んで来ます。手紙は長男友一郎の戦死の公報です。昭和17年１月20日、東部38部隊高崎15連隊に入隊、ビルマのインパールへ。戦死は昭和19年８月27日、インパール作戦は病気と食料不足、その上敗け戦、白骨街道への対応の仕方はどうにもならなかったのか。行政から届いた白木の箱の中身は、名前が書かれた紙だったそうです。

状況判断から考えて仕方のない事だと思いますが、当事者の私にとってどんな意味があるのか。何を学びとったらよいのか。出征の朝、父や兄や姉に、家の事・仕事の事・兄弟のつきあい方を話して行ったそうです。それらの基盤は「今を大切に・せいいいっぱい頑張って」です。

現在の私は、朝食後、野良着に着がえ、午前中はジャガイモ堀り、午後は自治会の会議。夜は夏祭りの幣束つくりです。

ホームカミングデーのアンケートから

11ページ下の欄に「第４回ホームカミングデーの様子」が文章と写真でまとめられています。開催当日、参加者がアンケートに回答した中から、抜粋して載せました。

- 宇都宮大学や教育学部の現状・内容がよく分かり、地域と密着していることを感じた。
- 施設紹介と案内があり、特に７号棟（旧音楽棟）を実際に見学できて大変良かった。
- 学生が駐車場案内や受付をするなど参加し、心強かった。特にパンフレットの表紙のデザインに学生の作品を取り入れたことは良かった。
- 会場に入った途端、大学歌のBGMが流れていて懐かしく感じた。大学歌が歌えたのは良かった。

峰ヶ丘講堂 / 美術教育専攻　大田原 美香

叙勲受章者への賀詞贈呈　おめでとうございます

犬塚　恒士 様（秋の叙勲）
大隅　昭夫 様（高齢者叙勲）
髙野左千流 様（高齢者叙勲）
野田　三郎 様（高齢者叙勲）
栗田　三義 様（高齢者叙勲）
西崎　昭久 様（高齢者叙勲）
室井　　剛 様（高齢者叙勲）
小堀　　功 様（高齢者叙勲）
野田　弘和 様（高齢者叙勲）
酒井　　勲 様（春の叙勲）
大平　文男 様（高齢者叙勲）
朝倉守之助 様（高齢者叙勲）
白石　豊光 様（高齢者叙勲）
高野　憲夫 様（高齢者叙勲）
阿久津照雄 様（高齢者叙勲）
高藤　　大 様（高齢者叙勲）
大森　育男 様（高齢者叙勲）
大野　和三 様（高齢者叙勲）
大野　昭二 様（高齢者叙勲）
若林　　晶 様（高齢者叙勲）
岡　　好 様（高齢者叙勲）
五味渕光貴 様（高齢者叙勲）
渡辺　確雄 様（高齢者叙勲）
鈴木　勝三 様（高齢者叙勲）
渡部　吉郎 様（高齢者叙勲）
佐藤　　超 様（高齢者叙勲）
田代　孝雄 様（高齢者叙勲）

退任者への感謝状贈呈　お世話になりました

栗原　隆史 様（河内北支部長）
石田　洋江 様（石橋支部長）
岩本　勝典 様（藤岡支部長）
日下田英彦 様（南河内支部長）
酒井　佳子 様（国分寺支部長）
島田　隆広 様（栃木支部長）
井口　桂一 様（都賀支部長）
野口　陽子 様（野木支部長）

平成29年度 定期総会

叙勲受章者への賀詞贈呈

講演会：講師 若園雄志郎様

大学歌を斉唱する会員

和やかな懇親会

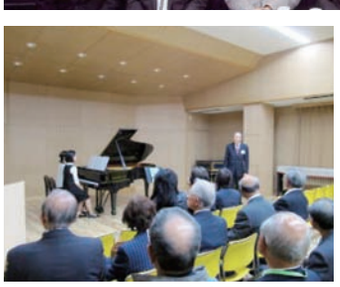
平成28年11月19日（土）　第４回ホームカミングデーの様子

平成28年11月19日（土）第４回ホームカミングデーが行われました。

今回も「おかえりなさい宇大へ」というキャッチコピーの元、懐かしい宇大へ多くの方が集まってくださいました。改修された音楽棟の見学もあり、和やかな充実した場となりました。懇親会では、同窓生（県内・県外を含め）が、先生方・学生と親しく交わり旧交を温めました。

旧音楽棟等の概要についての説明

ティーチングコモンズの見学


音楽ホールでの演奏を聴く参加者

懇親会での名誉教授紹介

先輩と話す学生

和やかに歓談

宇都宮大学教育学部同窓会について

宇都宮大学教育学部同窓会は、栃木師範・女子師範・青年師範・宇都宮大学教育学部（学芸学部）が、幾多の変遷を経ながら一体となって、昭和43年に「宇都宮大学教育学部同窓会」として誕生しました。平成29年度で141年という輝かしい歴史と伝統をもつ団体です。その間、同窓生は児童・生徒の教育に情熱を傾け、教育の中心的な存在として活躍してきました。また、教育以外の分野でも、各方面で、活躍されています。

同窓会では、ねらいを「会員相互の親睦と資質の向上を図り、母校の発展に寄与する」としています。

活動内容は下記の通りです。

母校である宇都宮大学への協力

- ●宇都宮大学基金への協力
- ●新入生歓迎会への協力
- ●学生へ記念品の贈呈
- ●就職対策セミナー（教員・公務員・企業等）への支援
- ●就職支援室への協力
- ●災害時における対応（見舞金）
- ●施設の新設・改修への協力
  - ・学生のサークル活動施設の新設（コスモス）（17年度）
  - ・宇都宮大学まなびの森保育園の新設（18年度）
  - ・宇都宮大学旧講堂の改修（19～22年度）
  - ・教育学部音楽棟の改修（25～27年度）

同窓会員の親睦

- ●総会（県・各支部）・懇親会の開催
- ●役員会・理事会等の会議の開催
- ●現職会員と終身会員との話し合い・交流
- ●会報（年１回）の配布
- ●会員の慶弔に関する事業

29年度同窓会役員名簿

【役員】

- ●客　員：石田　朋靖・伊東　明彦
- ●顧　問：福島　茂雄・岡田　　忠・柴田　　毅
- ●会　長：松本　展壽
- ●副会長：増渕　茂泰・坂本　三郎・髙瀬　崇夫
  小林　哲夫・竹井　　誠・飯野ハツヱ
  堀田由美子・川島　芳昭・黒川　悦夫
  酒井　功夫
- ●監　事：徳永　幸子・宇賀神玲子
- ●事務局：阿久津嘉子・高尾　亮子

【支部長】

宇都宮	松本　展壽	河内北	中村　陽子
上三川	鈴木　克伸	南河内	設楽　孝男
西　方	川嶋眞里子	今　市	久保田勝憲
藤　原	堀川　照子	日　光	君島　　實
芳　賀	生井　孝雄	都　賀	大出　悦子
壬　生	北見　　修	石　橋	前原　純子
国分寺	塩沢　建樹	大　平	星野美智夫
野　木	印出　雅昭	藤　岡	櫻井　　誉
岩　舟	松島　俊夫	小　山	癸生川　清
栃　木	五味　壽明	佐　野	白澤　嘉宏
足　利	坂本　三郎	塩　谷	髙瀬　崇夫
那須北	豊田　　充	南那須	星　　健彦
宇　大	川島　芳昭		

＊＊＊＊ 同窓会事務局から ＊＊＊＊

●平成30年度の県総会は、**平成30年７月１日（日）午前10時から、ホテル丸治で開催**の予定です。

●**平成29年度に終身会員になられた方**

【宇都宮支部】渡邊 昌子・髙田 芳紀・髙山 裕一・船山 文江・伊藤 政志・齋藤 恵美子・齋藤 美津子・大橋 多香子

【芳 賀 支 部】渡辺 確雄・吉住 正行・高崎 文江・横山 悦子・小林 律子・大塚 光一・小林 一勇・小池 れん子

【壬 生 支 部】粂川 健司・田熊 克己・尾形 須美子

【大 平 支 部】大豆生田 裕幸・山本 豊・富田 光一

【佐 野 支 部】荒井 哲郎・石川 博司・小松原 洋子・関谷 秀明

【塩 谷 支 部】豊田 裕之

【那須北支部】鈴木 昭宏・秋田 一子・村上 かづみ・橋本 仁枝・相馬 謙策・増渕 恵子

編 集 後 記

表紙の「想い出の学び舎」に合う写真を探しましたが、「宇都宮大学教育学部百十五年史」を参考にするしかありませんでした。もし、お手元に写真があれば、同窓会事務局までご連絡ください。大切な資料として保管し、今後の特集に利用させていただきます。

「３Ｃ基金」につきましては、各支部の支部長・事務局に会員のデータをいただきました。ご協力に感謝いたします。会員の皆様におかれましては、お世話になった宇大のためにできることが、「３Ｃ基金」への協力になると思います。

それぞれの立場で原稿を書いてくださった方々、執筆ありがとうございました。共感できるところが多々ありました。

【編集委員】

川村 和生・小林 純子・高尾 亮子・阿久津 嘉子